

○事業所名	児童発達支援放課後等デイサービスにじいろ		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2026年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 10人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2026年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 25 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもたちが安心感を持って楽しく通所している。	「できた」と感じられるようスモールステップの設置、できた・取り組むことができた「結果」と「過程」に注目し、承認し最も根本的な信頼関係や自己肯定感の土台作りを行っている。児童が好きな活動や自信をもってできる活動、みんなで行う楽しさを職員を介し経験できる様、様々な活動・効果的な支援を職員間で話し合い見直している。	児童が特定の出来事に関して不安が強くなってしまったり、できないと自己を責めてしまうことがあった際には、活動とは切り離した気持ちを切り替える場を用意する。個別の活動として安心できる場を用意し、気持ちを受け入れてくれた経験や「できなくてもいい」「次頑張ろう」「自分には得意なことがある」というように別の出来事として気持ちを切り替えるような支援を行う。より安心してしやすい場の見直しや効果的な支援方法(現在は絵本や話し合い)を見直していく。
2	事業所の支援内容の充実、児童発達計画に沿った支援内容を行うことができています。	日直が主導で活動内容を決め、活動を行う前に職員全体で1日の支援内容に対して共有し協力した体制をとっている。担当制にすることで活動内容が固定化せず、日々打ち合わせをすることで児童によって効果的な支援を見直すことができています。また、児童発達支援計画に関して職員間で都度話し合いを行うことで日々の様子や支援が効果的であったのかといった見直しを行っている。	アンケートの結果、児童発達支援計画に沿った支援が行われているのか、支援の内容を理解しているか、保護者のニーズや課題が客観的に分析されていたかといったことに対して「どちらともいえない」「わからない」といったことが見られていた。保護者に対し支援の目的や内容、今後の目標に向かっていくための課題の設定等説明方法を見直す必要がある。また、目標の設置が適切かどうか、記載方法も含めて見直していく。
3	活動スペースの確保、怪我のない安全な環境づくりができています。	主とする活動場所を移動したことも理由にあると思うが、必要なものや家具の配置の見直しを行うことで活動スペースの見直しができた。また、定期的に危険な箇所はないかといった見直しを行い、クッションテープで保護することで怪我を未然に防ぐことができていように思う。	より安全に過ごしていただくためには、環境の見直しが必要である。定期的に安全への意識を高めるためにも避難訓練や研修を実施し、児童に対しても紙芝居やクイズを行い、非常時になにをすべきなのかを共有している。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園や幼稚園、小学校との情報共有や就学といった移行支援の見直し	適切なフォーマットがなく、共有すべきことが全体として把握できていないことも課題である。事業所間では児童の困り事や支援を必要とする場面や支援を行う上で必要な傾向を共有していた。しかし、保育園・幼稚園・小学校等の機関への情報共有ができていないと見受けられる。共有する優先順位を下として捉えていた等の事が考えられる。実際は優先事項として高いものであるため、全体として連携を行う上で必要な情報の取捨選択を見直していく必要がある。新年度より情報共有を早急に行っていく。	保育園や幼稚園等送迎時に可能な限り日々の様子を情報共有しているが、支援内容や困り事といった細かい内容に対しては全児童行うことはできていない。適切な支援を行っていくためには他機関との連携が必要であり、就学に向けた支援を行う上でもデイだけではない「保育園・幼稚園の様子」「家庭での様子」について共有する必要がある。「何に」困りやすいのか、「どういった状況」であればいいのかといったことを書類にし共有していく。
2	面談や子育てに関する助言等を聞く場の提供回数の見直し	面談を実施しているが定期的な面談の機会があるとはいえない現状である。今まではこの時期に行った方がいいという漠然としたルールがあったが、細やかな支援を行う上では面談や子育てに関する助言の提供、最近の困り事等の共有は重要である。送迎の際にすべてカバーすることに限界があるため、見直しが求められる。	現在の予定より増やす必要がある。具体的には4～5月にかけて新学期に関しての面談、11月に以前の面談を踏まえた振り返りと就学準備の進行状況についての確認の面談を行う。年2回は実施し、必要に応じて電話での面談や送迎時に細かく日々の状況を聞くことを行い、子育てに関する助言が行われているという満足感につなげていきたい。
3	保護者会やペアレント・トレーニングといった研修の場の提供の実施について	現在事業所として開催はしていない。理由としては実施する上でのノウハウがないことや、保護者全体でのニーズとしてそこまで求められていなかったこと(アンケートの記載がなかった)、ニーズの数として開催希望のアンケートを取っていない等が考えられる。	希望があれば行う方針だったが、関連事業所で保護者会を行った際評判が良かったという共有があったこと、機関支援の一環としてペアレント・トレーニングとして交えた開催方法があること等を共有できた為今後関連事業所と打ち合わせを行い、検討していく。